

渥美郡三町の時代



郷土史編さん室 ☎ 36-6503

海での水泳訓練

文部省唱歌「われは海の子」は、明治43年に『尋常小学読本唱歌』に

われは海の子

われは海の子白浪の
さわぐいそべの松原に
煙たなびくとまよこそ
わがなつかしき住みななれ



●松風のわたる片浜海岸
(昭和40年ごろ／童浦市民館提供)

発表され、大正3年には6年生用の『尋常小学唱歌』として教科書に掲載されました。歌詞は、かつての日本の典型的な海的情景であり、昭和30年代までの渥美半島の海辺の風景でもありました。

北部尋常小学校の水難事故

童浦小学校の前身である北部尋常小学校の『学校沿革史』には、大正7年に初めて海で水泳訓練を実施したことが記載されています。訓練の最終日には、遠泳50町（約5.5km）と40町のテストが行われました。以後、この遠泳訓練は、北部尋常小学校の伝統的行事となりました。

昭和15年7月22日から始まった水泳訓練は6日目の最終日、恒例の遠泳訓練が行われました。高等科2年の生徒が一生懸命泳ぐ後をフカ（サメの別称）が追いかけてきました。フカの姿を船（べか船）の上から見かけた先生たちは、竹竿で海面を打ち叩きフカを追い払おうとする一方、生徒たちを陸の方へ誘導しました。しかし、生徒のひとりがフカに襲われてしまいました。

28日の学校葬は悲しみに包ま

●北部小学校の水泳訓練(昭和40年ごろ／童浦市民館提供)



れました。姫島沖へ軍艦が停泊するようになって、サメが船に付いてきたのだと噂されました。

その後、戦争が激しくなったこともあり、水泳訓練は控えられました。戦後、北部小学校が海での水泳練習を始めたのは、昭和32年になってからのことでした。

西部小学校での臨海学習

昭和30年5月、岡山県の宇野港と香川県高松港とを結ぶ宇高連絡船が他の船と衝突し、沈没する事故が発生しました。

この事故で多数の児童生徒が溺死

しました。この事故を教訓として、文部省は、小中学校での水泳指導を求めました。

海での体験を兼ね、三河湾の波静かな海水浴場での臨海学習を計画する学校が次第に増えてきました。

白谷海岸に近接していた西部小学校では昭和31年以降、海岸沖合にサメよけの網を長く張り、児童が安全に泳ぐことができるようにPTAが遊泳場をつくりました。南部小学校、神戸小学校、東部小学校、高松小学校などからは、夏休み中の臨海学習の利用の申し出がありました。

しかし、昭和40年代になると、三河湾の水質環境の悪化と学校プールの設置を契機として、次第に臨海学習を実施する学校はなくなりました。

冒頭の文部省唱歌「われは海の子」の曲は、昭和55年にはすべての音楽教科書からいったん消えましたが、平成元年の「学習指導要領」改訂で復活し、小学校音楽教科書（東三河で採択されている教育芸術社）では、心の歌として、歌い続けられています。

※北部小学校・西部小学校は昭和43年に童浦小学校として統合されました。

（執筆委員・小林一弘）